【23_249技術系メルマガ】損切り＝仕入れコスト　という考え方

〇〇さん

こんにちは、クロです。

トレードにおける『損切り』は、よく商売で言うところの『仕入れコスト』と考えることを僕の周りの人には伝えています。

▼参考ポスト▼
https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1699291233959776518?s=20

過去メルマガでも何度かこのように表現した事があったかも知れません。

ただ、この考え方がいまひとつピンとこないという人もいます。

恐らくそれは「本当に "仕入れ" なら支払いが先だから」でしょう。

ですが、トレードにおいてはエントリーした時点でまだその損失（コスト）は確定しているわけではなく、自分で値決めしてダメなら支払うことになるわけです。

ですが、これはコストの発生する順序が違うというだけで、自分がそのエントリーにどれだけのリスクを取るのか

すなわち、『十分なリワードを見込んで、その損失・コストを許容できるか』を常に考えてポジションを取らなければならないことには違いありません。

誰だって、120円でしか売れないリンゴを200円では買いたくないでしょうし、商品を仕入れて売るからには、利益を出さなくてはいけません。

ならば、適正なコストで仕入れ、十分な利益を乗せて物を売る。

トレードにおいても、適正なコストを見究め、欲張り過ぎず・遠慮しすぎないリワードバランスで完結する。

これを十分な検証とテストに基づいたルールで粛々と執行していけば、最終的にトータル利回りプラスで終われるトレードができるわけです。

トレードで結果を残せない多くの人は

・1回のコストを過大に見積もる（損切幅が大きすぎる、損切りを粘る）

・非現実的な販売額でモノを売ろうとしている（リワードが大きすぎる）

商売に当てはめれば、このどちらか（もしくは両方）をやってしまっているとも言えるでしょう。

コスト（リスク）もリワードも、実際どの程度が適正なのかはルールやトレードスタイル（スキャル、デイ、スイング）によっても異なるので、一概に具体的数字で規定できるものではありません。

それこそ自分の決めたパラメータで検証・テストを行った結果、トータルで利が残るかどうかが答えです。これは自分で見つけなければいけません。

要するに検証作業というのは

自分を商売人に例えれば売買商品の市場分析（どんな客層に、どんな商品が、どの程度の価格で売れるのか？仕入れて採算がとれるのか？）をするようなものです。

その検証なしに商売を始めれば、当然負債だけが残ってその商売は失敗することでしょう。

自分がなぜ損切りを行うのか、その目的を明確にして適正にそれを行えているのか？

よく点検しながら、自分のトレードスタイルの最適解を見つけていくようにしましょう。